

だい かいみやまえ ち く せいしょうねんさくひんてん かいが ぶ こうひょう
第38回宮前地区青少年作品展『絵画の部』講評

この作品展は、宮前地区の子供たちが自宅や地域の子ども会などで描いた絵
が集まる、今年で38回目となる作品展です。

応募していただいた絵画やイラスト・デザイン、ちぎり絵等を見ながら、ど
んな「思い」でつくっていたのかなと想像して審査しました。自分の好きなこ
とを表現した作品、独創的な発想で想像した世界を表現した作品、生活の中
で頑張ったことやうれしかったことを表現した作品、家族や仲間との思い出
が表現された作品等に出会うことができました。

今年は、野球をテーマにした作品やカラフルな作品、表現の技法の工夫が
されている作品が多くみられました。作品に表現されている主人公の表情
が生き生きとしており、心温まる子供のみずみずしい感性を感じられる作品
に心が動かされました。人物の様子がよく表現された思い出の作品や空想の
世界を表現した作品の色使いのすばらしさも感じました。

今後も、自らの想像力を働かせ、「思い」を絵に表し、より自分らしい
表現を追求していくことを大切にしてほしいと思います。

来年もまた、子供たちの心が動いた「思い」がいっぱいつまった作品が、
たくさん作られることを願っています。

しんさいん かわさきしりつひさもとしょうがっこう きょうとう ふじわら ゆうこ
審査員 川崎市立久本小学校 教頭 藤原 由布子